

9) 第3節 次代を育む文化・教育環境の創造

目的：多くの市民が暮らしたいと思う文化や教育環境がある

指標：文化・教育に魅力を感じて、いつまでも住み続けたいと思う人の割合

目的

このまちにいつまでも住み続けたい、住んでいて良かったと市民が感じ、喜びや生きがいとともに、ふるさととして愛着が感じられるまちにするためには、教育と文化も大きな役割を担っています。

指標

松戸市の文化・教育環境の整備方針や施策の評価は、本市の定住志向に関する市民意識調査において、文化・教育の環境整備を理由に住み続けたいという市民の割合としてとらえることが的確です。今後、この評価を高めて行くことを目指します。

設問

この指標は、「文化・教育環境の4項目の満足度」と「定住意向」を組み合わせ導きだしている。「社会・態度(評価)」

「子どもの教育環境」「文化・芸術の鑑賞や活動環境」「スポーツや健康づくりのための環境」「史跡や神社など歴史・伝統文化遺産」の4項目

あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてそれぞれの程度満足していますか。(1つに)

- 1 十分満足している 2 まあまあ満足している 3 普通である 4 やや不満である  
5 きわめて不満である 6 わからない 「定住意向」はp30を参照

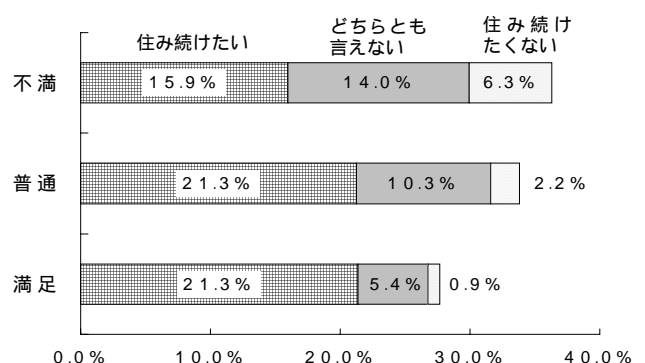
指標の現状(値)

定住意向	住み続けたい	できることなら 住み続けたい	計
十分満足している	0.5%	0.2%	0.7%
まあまあ満足している	12.2%	8.4%	20.6%
計	12.7%	8.7%	21.3%

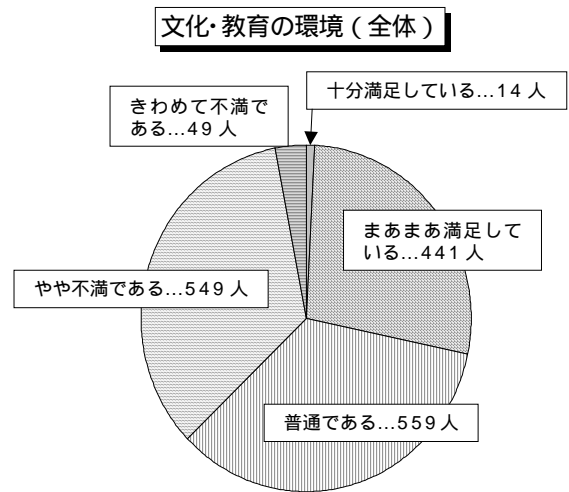
指標の分析

文化・教育環境に関する満足度を3つに分類すると、満足している人が28.2%のうち住み続けたいと思っている人はそのうちの3/4の21.3%と文化・教育環境の満足度が高ければ、定住意向も高くなっている。

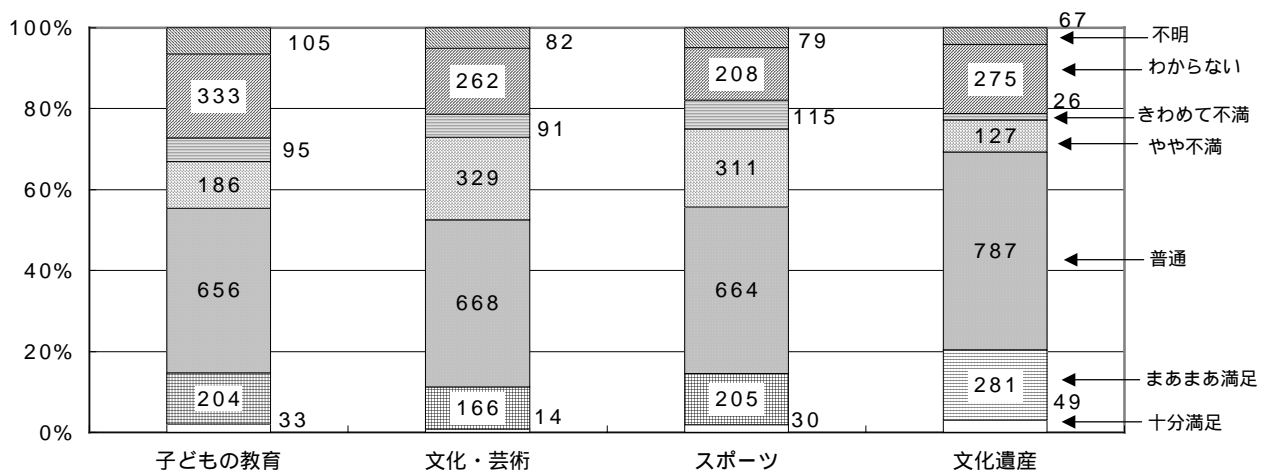
文化・教育の環境 × 定住意向



次に、文化・教育環境の全体の満足度は、満足している人が28.2%と少なめで、不満がある人が37.1%と若干多めである。



さらに、個別に見ると、満足度が高いのは、「歴史・伝統文化遺産」で、満足している人が20.5%、普通の人々が48.8%であり、満足度が低いのは、「文化・芸術の環境」で、満足している人が11.2%である。「スポーツ環境」は満足していない人が26.4%と多く、「子どもの教育環境」はわからない人が20.7%と多い。



10) 第3節 次代を育む文化・教育環境の創造 第1項 生涯学習の推進

目的：より多くの人々が積極的に学習活動を行い、その成果を活かすようになる  
 指標：学習活動を行っている人の割合

目的

学習は、その体験を成果として何らかの形で活かすことにより、学んだ事柄が自分の中に定着し、さらに次の学習に進んでいくという構造を持っています。このことは、学習者の主体的な学習と、地域の中での多様な学習活動による学び合う関係を育んでいきます。また、本市の生涯学習に関する市民意識調査においては、学習活動と地域活動との間に相関関係が認められました。

これらのことは、学習活動が地域社会での活動へと発展し、地域づくりの重要な要素となることを示唆しています。

指標

地域づくりの基盤となる生涯学習社会の実現に向けて、学習活動に取り組む市民が多くなることを目指します。

設問

この指標は、次の設問により期間を限定して直接的に聞いている。「個人・行動」

あなたは日頃、特定の関心があるテーマについて、自主的に学習活動をしていることがありますか。過去1年間を振り返って、学習活動に取り組んだ日数は平均するとどのくらいですか。(1つに )

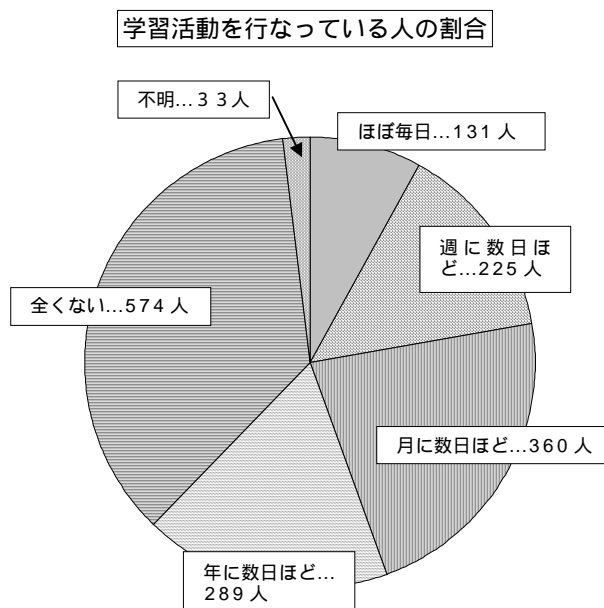
1 ほぼ毎日                      2 週に数日ほど                      3 月に数日ほど  
 4 年に数日ほど                      5 全くない

指標の現状

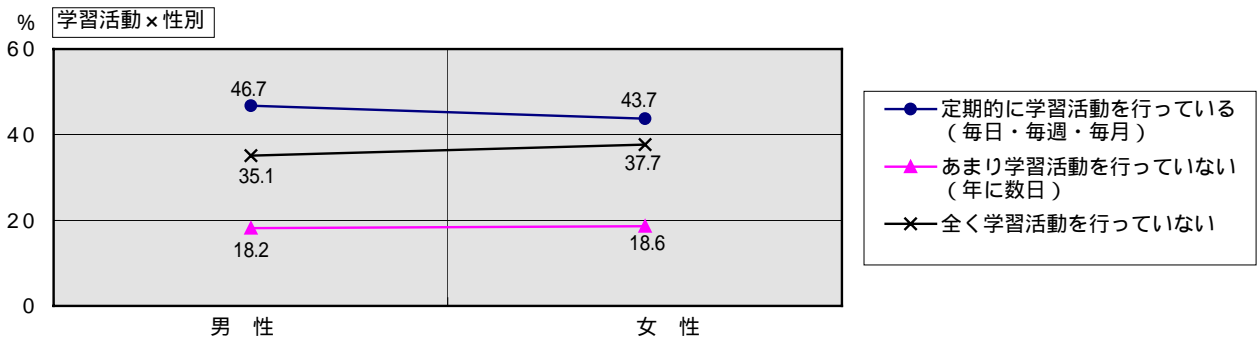
カテゴリー	割合
ほぼ毎日	8.1%
週に数日ほど	14.0%
月に数日ほど	22.3%
計	44.4%

指標の分析

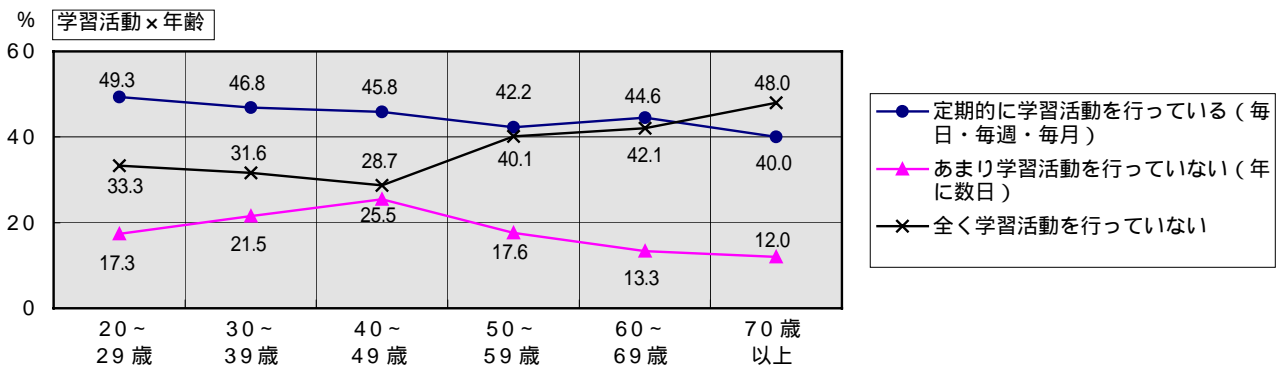
過去1年間に学習活動に取り組んでいる人(「ほぼ毎日」「週に数日」「月に数日」)は22.1%であるが、取り組んでいない人(「全くない」)も35.6%と多い。



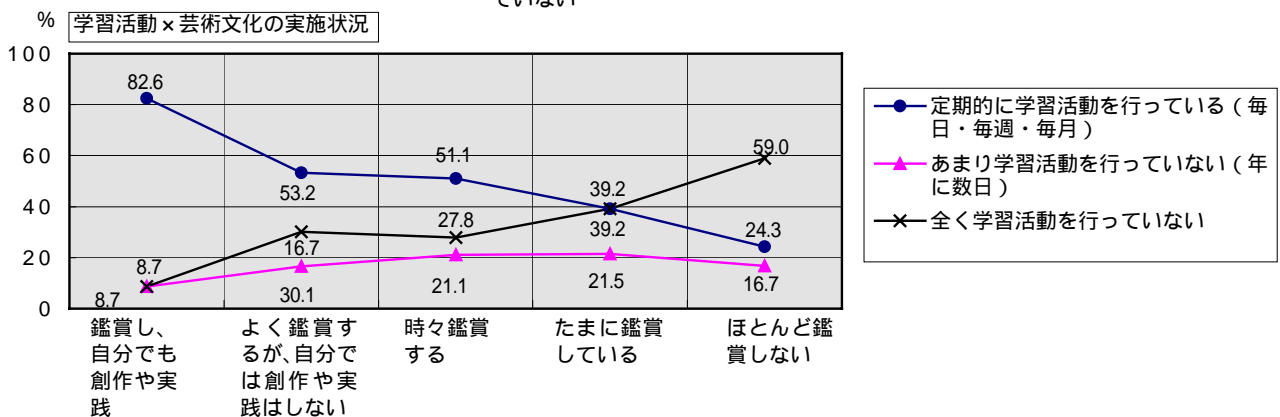
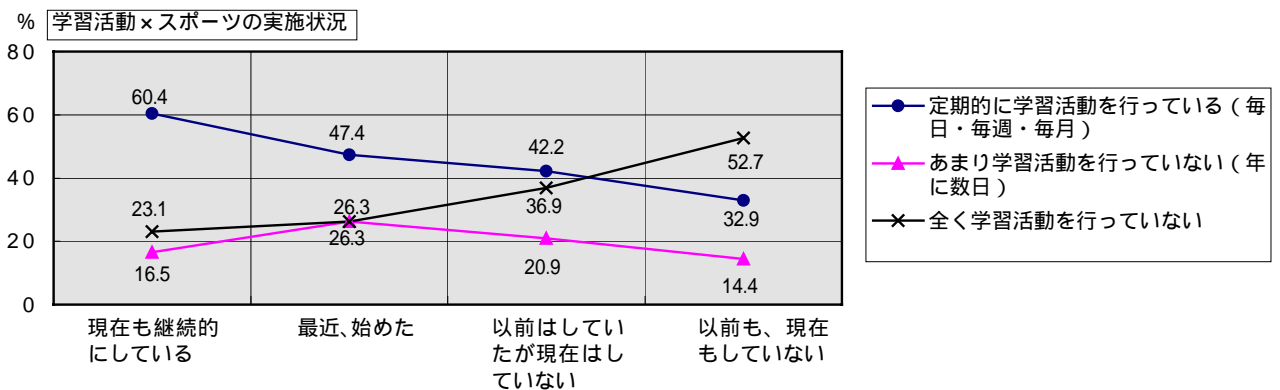
次に、性別で見ると、女性より男性の方が定期的に学習活動を行っている割合が若干高い。



また、年齢別に見ると、年齢に係わらず、どの年齢階層も40%以上の方が定期的に学習活動に取り組んでいる。しかし、50歳代を境に学習活動を全くしない人の割合が高くなっていく。



スポーツや文化・芸術活動との関係を見ると、活動してい人の方が定期的に学習活動を行っている割合が高い。



11) 第3節 次代を育む文化・教育環境の創造 第1項 生涯学習の推進

目的：より多くの人々が積極的に学習活動を行い、その成果を活かすようになる  
指標：学習活動の成果を地域社会で活かしている人の割合

目的

学習は、その体験を成果として何らかの形で活かすことにより、学んだ事柄が自分の中に定着し、さらに次の学習に進んでいくという構造を持っています。このことは、学習者の主体的な学習と、地域の中での多様な学習活動による学び合う関係を育んでいきます。また、本市の生涯学習に関する市民意識調査においては、学習活動と地域活動との間に相関関係が認められました。

これらのことは、学習活動が地域社会での活動へと発展し、地域づくりの重要な要素となることを示唆しています。

指標

地域づくりの基盤となる生涯学習社会の実現に向けて、取り組んだ学習活動を活かす市民が多くなることを目指します。

設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・態度（認知）」

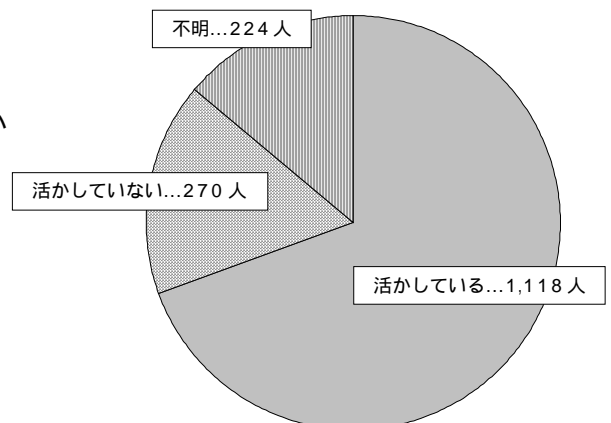
あなたがこれまでに、自主的に取り組んだ学習活動の成果が活かされていると思いますか。（全てに）

- |                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| 1 仕事、職業に活かされている           | 2 自分自身の向上に活かされている   |
| 3 家庭や家族に活かされている           | 4 地域活動や社会活動に活かされている |
| 5 親睦を深めたり、友人を得るときに活かされている |                     |
| 6 その他（ ）                  |                     |
| 7 活かされていない                |                     |

指標の現状（値）

カテゴリー	割合
活かしている	69.4%

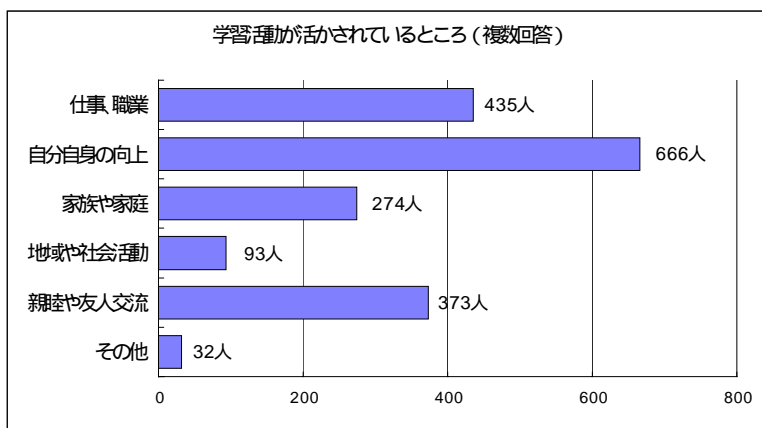
学習活動の成果を活かしている人の割合



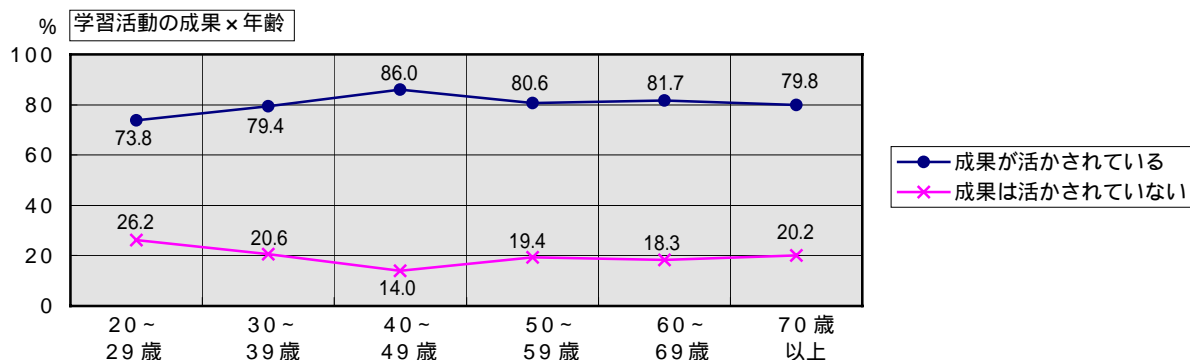
指標の分析

これまでに、自主的に取り組んだ学習活動の成果が活かされている人が69.4%と高い割合になっている。

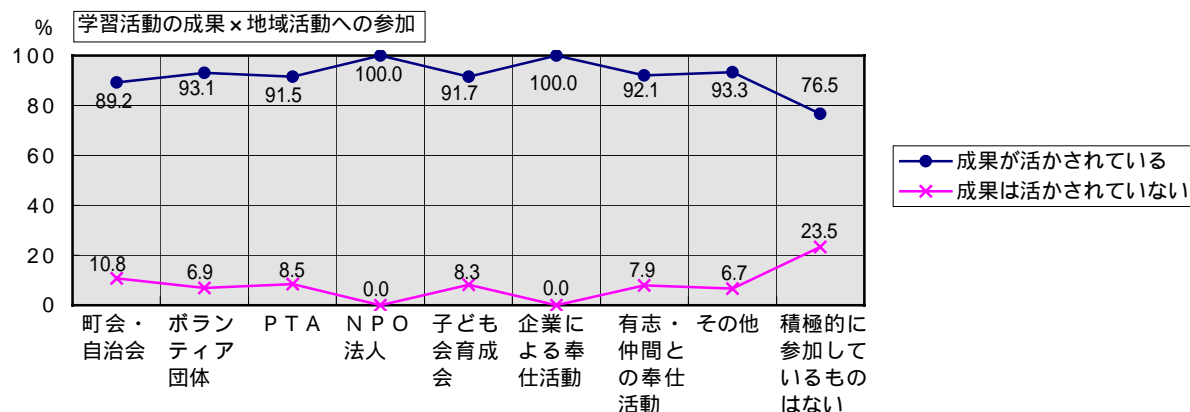
特に、活かしているものとしては、自分自身の向上に関するものが半数以上と多いが、まだ、学習成果が地域や社会活動に活かされている人は8.3%と低い。



次に、年齢別に見ると、40歳代をピークに加齢するにしたがって成果が活かされる割合が高くなる。



また、地域活動への参加との関係を見ると、やはり地域活動に参加している人の方が、全体的に成果が活かされている割合が高い。



12) 第3節 次代を育む文化・教育環境の創造 第3項 生涯にわたるスポーツ活動の支援

目的：より多くの人々がスポーツに親しむようになる

指標：スポーツを行っている人の割合

目的

人生をより豊かにし、身体・精神の両面に良好な作用をするスポーツは、ストレスの多い現代社会において、心身の健全な発達や活力に満ちた社会を形成していく上で必要です。市民それぞれのライフステージに合ったスポーツを親しむことが重要であると考えます。

指標

スポーツを行っている市民の割合を測ることでスポーツの振興度合を把握し、スポーツに親しむ市民の増加を目指します。

設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・行動」

あなたは日頃、運動・スポーツをしていますか。(1つに )

- 1 現在も継続的にしている
- 2 最近、始めた
- 3 以前はしていたが、現在はしていない
- 4 以前も、現在もしていない

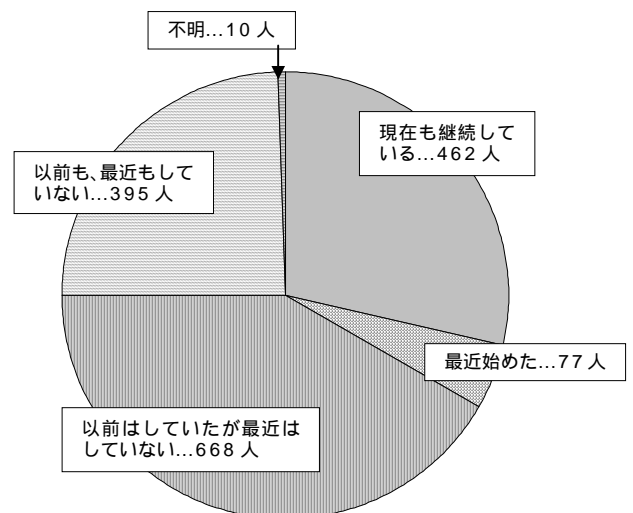
指標の現状(値)

カテゴリー	割合
現在も継続的にしている	28.7%
最近、始めた	4.8%
計	33.4%

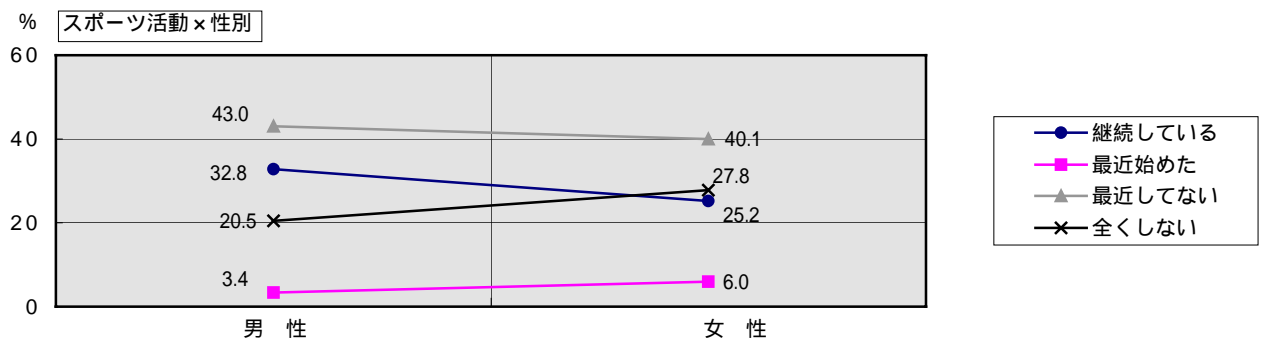
指標の分析

日頃、運動・スポーツをしている人は33.4%(「現在も継続的にしている」「最近、始めた」)に留まっている。やめてしまった人(「以前はしていたが最近はしていない」)41.4%と多いのは見逃せない。

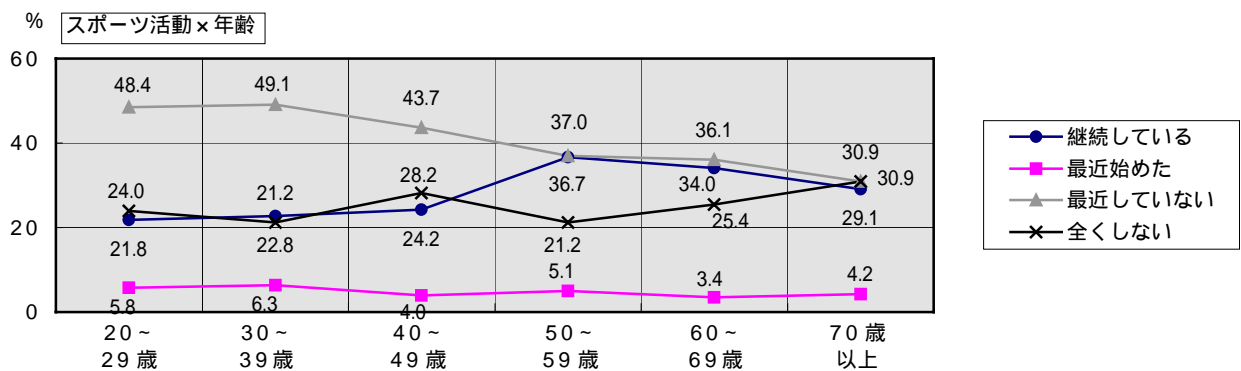
スポーツを行なっている人の割合



次に、性別で見ると、男性の方が継続している人が若干多く、その他はあまり偏りが見られない。



次に、年齢別に見ると、若い世代がやめてしまった割合が高い。また、どの年齢になっても一定の割合で、スポーツを始めている人がいることは見逃せない。



さらに、スポーツの環境に対する満足度との関係を見ると、スポーツをしている人の満足度は高いが、逆に、スポーツをしていない人には満足度が低い。

